

授業概要

科目名	作業療法評価学実習Ⅳ					授業の種類	実習	講師名			
授業回数	23	回	時間数	45	時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年	通年
【授業の目的・ねらい】 これまでに学んできた評価方法を実際の対象者を想定して実施できるようになる。 評価計画を立てることができる。											
【実務者経験】 ・作業療法士として回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設等にて、身体障害領域及び老年期領域のリハビリテーションに従事経験。 ・作業療法士として回復期リハビリテーション病院にて身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 事例を提示し、評価計画を立て、計画に沿って実施する練習を行う。 事例を提示し、統合と解釈、目標を設定する練習を行う。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 事例に対し、評価計画を立て、計画に沿って実施することができる。 事例に対し、統合と解釈を行い、目標を設定することができる。											
回数	講義内容								準備物(教材)		
1	事例１：評価計画を作成できる								教科書		
2	事例１：評価計画に沿って評価を実施できる								教科書		
3	事例２：評価計画に沿って評価を実施できる								教科書		
4	事例１：統合と解釈ができ、目標設定を行える								教科書		
5	事例２：統合と解釈ができ、目標設定を行える								教科書		
6	事例２：評価計画を作成できる								教科書		
7	事例２：評価計画に沿って評価を実施できる								教科書		
8	事例２：評価計画に沿って評価を実施できる								教科書		
9	事例２：統合と解釈ができ、目標設定を行える								教科書		
10	事例２：統合と解釈ができ、目標設定を行える								教科書		
11	事例３：評価計画を作成できる								教科書		
12	事例３：評価計画に沿って評価を実施できる								教科書		
13	事例３：評価計画に沿って評価を実施できる								教科書		
14	事例３：統合と解釈ができ、目標設定を行える								教科書		
15	OSCE課題①								教科書		
16	OSCE課題①								教科書		
17	OSCE課題①								教科書		
18	OSCE課題②								教科書		
19	OSCE課題②								教科書		
20	OSCE課題②								教科書		
21	OSCE課題③								教科書		
22	OSCE課題③								教科書		
23	OSCE課題③								教科書		
	定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学 作業療法評価学３版 能登真一 医学書院 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版											
【準備学習・時間外学習】 1・2年生で学んだ評価の方法を都度復習し、授業に望む。 授業後は、評価方法を1人でもできるレベルになるように復習する。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は課題の評価を20点、定期筆記試験を50点、OSCEを30点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。											